

平成29年度平塚市子ども・子育て会議
第2回全体会議 会議録

日時：平成29年8月22日（火）午後2時～午後3時40分
場所：平塚市役所本館7階 710会議室

1 議題

(1) 子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し

ア 教育・保育の量の見込み並びに提供体制の確保の内容及びその実施時期

事務局が、見直し案（たたき台）について、資料1、2、3、冊子「子ども・子育て支援事業計画」に基づき説明した。

【質疑応答は次のとおり】

委員：見直し案（たたき台）が2つあるが、事務局としては第2案を推進していきたいということによろしいか。

事務局：第1案では、現実的にこれだけ早急な施設整備などができるのか、また仮に整備ができたとしても児童数全体は減少傾向があり、数年後には保育室が空いている状態が生じる疑念もあるため、第2案を提案した。

委員：第1案では、認可保育所12か所、小規模保育7か所相当の受け皿の整備を想定しているが、第2案では、認可保育所4か所、小規模保育4か所相当の受け皿の整備を想定しているとのこと。第1案と第2案で箇所数が異なっている理由と、どの数字を基に箇所数を算出したのか。

事務局：箇所数が異なっているのは、第1案と第2案で「提供量（確保方策）2号・3号の人数」の数値が異なっているためである。箇所数については、資料1「認可保育所、小規模保育事業の定員」と第1案・第2案「提供量（確保方策）2号・3号の人数」を基に算出した。

委員：現在、幼稚園は定員に対して6割程しか入っていない状況。社会情勢が変わり、保育所へ入所したい方が増えている。平塚市では、小規模保育を検討する方向に変化しているようだが、小規模保育の場合、3歳の壁が問題になる。しかし、3歳からは預かり保育を実施している幼稚園へ入ることが可能なので、小規模保育を推進した方が良い。現在、早朝保育については、補助金が出ない。経営面がクリアできれば、小規模保育はやりやすいと思う。平塚市独自の補助金を検討するなどの課題があると思う。

イ 地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保の内容及びその実施時期
事務局が、見直し案（たたき台）について、資料1、2、冊子「子ども・子育て支援事業計画」に基づき説明した。

【質疑応答はなし】

ウ 子どもの貧困対策

事務局が、子ども・子育て支援事業計画における子どもの貧困対策の位置づけの案について、資料4、冊子「子ども・子育て支援事業計画」に基づき説明した。

【質疑応答は次のとおり】

委員：「子どもの貧困対策」に関連する事業名の後ろにつく「(困)」という表記は、採用されると広く周知されるのか。

事務局：はい。表記については、皆様から御意見をいただき、参考としたい。

委員：前向きな表記にしたいと思うが、何か御意見はあるか。

委員：他の表記は全て最初の文字を使用しているため、「(貧)」で良いのでは。

委員：「(貧)」や「(困)」ではなく、「援助・支援」の「(援)」はどうか。

委員：「(援)」だと、他の項目にも該当してしまう。

委員：資料1に、「高等学校等の卒業まで切れ目なく支援をする」とあるが、具体的な施策はなにがあるのか。

事務局：施策としては、資料4の施策の体系図1（4）9「子ども学習支援委託事業」がある。生活保護世帯や生活困窮世帯の中学生は塾に行けない子どもが多いため、学習支援を行い、高校受験を支援する事業となっている。

委員：実際の高校生に対する支援は何があるのか。

事務局：子ども・子育て支援事業計画に記載はないが、子ども・子育て推進会議の分科会で、高等学校を卒業できるように、相談支援を行う支援員等の導入を検討している。

委員：公立の高等学校は、所得に応じて授業料が決定するので経済的に大きな課題にはならないと思うが、私立の場合は経済的な負担により中退となってしまう場合も考えられる。平塚市で何か対策を取れると良いと思う。大学も同じような状況なので、併せて何か対策があると良いと思う。

委員：支給型奨学金や貸与型奨学金を行っている市町村もあるため、検討していただければと思う。

事務局：情報提供だが、私立高等学校に進学している子どもについて、神奈川県実施の学費補助制度等がある。

(2) その他

次回の会議については、10月頃を検討している。また、正式に決まり次第通知を送付する。

出席者：落合会長、黒田副会長、金田委員、新藤委員、鷺尾委員、吉野委員、山口委員、長谷川委員、島崎委員、赤澤委員、小島委員、佐瀬委員、庄司委員、須貝委員、橋本委員、福井委員

傍聴者：なし

事務局：健康・こども部長、保育課長、保育課3人、こども家庭課1人、健康課1人、青少年課1人、教育総務課2人

以上